

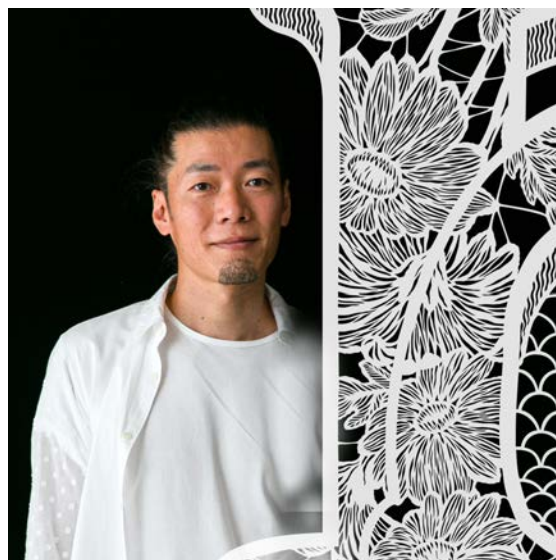


DEKA Hayashi Masahiko



DEKA

Hayashi Masahiko



【作家ステートメント】

私は独自の表現方法を持っています。

アーティストとしての基本的な技法・素材はモノトーンの鉛筆画やペン画ですが、その時々的手段として木・漆・朽ちた錆などの表現を取り入れた

立体物や、近年は切り絵・影絵の技法を取り入れ、時間と共に移り変わる空間を演出する巨大なインスタレーション作品などを発表しています。

モチーフとして私が好んで演出するものには2つの要素があります。

1つ目はアニミズムや精霊文化に見られるモノに宿る「もの」をそのままの容姿で描くのではなく、

具象に近いかたちで抽象化し、デザインしたモノを描くという要素、

2つ目はグラフィティなどの現代的なストリート文化を独自解釈して描く要素です。

この2つの要素が溶け合い、そこに日本人独特の「間」の構築や構図も相まって

シンプルで非常に綿密なイメージや情景・物語を演出することに成功していると考えています。

【PROFILE】

林 雅彦 deka | Masahiko HAYASHI deka

1972 年 大阪生まれ 京都在住

京都精華大学 立体造形専攻科卒業

2020.11 DEKA HAYASHI MASAHIKO Exhibition

2019.11 DEKA HAYASHI MASAHIKO Exhibition

2017.9 Illustrade 2017 ゲストアーティスト

2014.11 Zwei 2

2013.9 萌木色の夢 林雅彦 DEKA EXHIBITION

2013.11 日向香と、時の影で 林雅彦 DEKA EXHIBITION

2012.10 DEKA HAYASHI MASAHIKO Exhibition

2012.10 DEKA HAYASHI MASAHIKO Exhibition

～(他多数)

GALLERY HEPTAGON/ 京都

重要文化財杉本家住宅・蔵 / 京都

ロストック美術館 / ドイツ

同時代ギャラリー / 京都

LA GALERIE/ 大阪

同時代ギャラリー / 京都

Artquarium ロストック / ドイツ

Galerie Knoetzmänn フランクフルト / ドイツ

【作家ウェブサイト】

<http://deka-hayashimasahiko.com>



DEKA

Hayashi Masahiko



「たどりついた夢は、真夜中に」 (2017)
Material / Wood / Acrylic paint / Pencil / Paper
H 4000 / W 4000mm



ドイツ / ロストック美術館での展示 (2017)

ロストック美術館の展示

「illustrade2017」はドイツのイラストコンテストで、その年の決勝の舞台がロストック美術館だったのですが、私はそのコンテストのゲストアーティストとして特別展示しています。私はもともとロストック地域で滞在展示を何度かしていたこともあり、当初はコンテストに チャレンジャーとして応募したのですが、コンテスト委員会から「デカだったら実力がわかっているのでコンテストではなくゲストアーティストとして招待させてほしい」となり出展したものです。

モノクロの鉛筆画 「たどり着いた夢は、真夜中に」

この作品のきっかけは、上記の illustrade に出展することになった事でした。

初めて友人の住むドイツロストックにやってきたのが 2009 年の 5 月末、

ドイツ国内で開催される 6 月 1 日 / 芸術の日にたった 1 日だけの小さな展覧会を開催するために。

私は友人の家に着いたその足でロストック探索に出かけたのです。真夜中に友人と 2 人でたどり着いたのがこのロストック美術館で、その時私はいつかこの美術館で展示したいなあと、その思いを忘れないように真つ暗な美術館の前で写真を撮り、それをずっと願っていました。8 年の月日が流れ、その願いが小さいですが叶うこととなり、illustrade2017 に出展する絵を描こうと思った時に思いついたのがこの絵でした。

この絵は回廊の絵なのですが、丁度真ん中にドアノッカーがついて花が添えられています。

この回廊の扉一つ一つは 1 日 1 日を表していてその扉の上には月暦が刻まれています、私の願いが叶う / 初めて展示が開催される日は新月の日でしたので新月の扉の上に「初めまして、やっとここにきましたよ」という気持ちを表すためにドアノッカーを、自分自身を讃える為に花束を添えてこの絵を描きました。そして自分の夢はあの日の真夜中にあったことをタイトルとしてつけました。



DEKA

Hayashi Masahiko



ドイツ / ロストック美術館での展示 (2017)



DEKA

Hayashi Masahiko



重要文化財 杉本家住宅・蔵 / 京都での展示 (2019)

「DEKA の文字の作品」

この作品を制作するきっかけとなったのは、「グラフィティ＝自由に壁に表現するもの」という図式なしに

語る事の出来ないストリート文化の影響なのですが、私はこのデザインとしての著名性 / 作者としての匿名性のスタイルはとても好きだけれども

「無許可に壁に書く」という行為はあまり好きではありません。

そこで思いついたのがこの作品です。

ストリート文化では作者としての匿名性というものを大切にしますが、私自身はアーティストですのでアーティストとしての著名性を表現するために

「DEKA」の文字の中にドイツ語で私自身のステートメントを入れ、

影絵という表現を持って壁に映し出してアーティストとしてのグラフィティの一つ、それを表現することにしたのです。

重要文化財 杉本家住宅

杉本家住宅は、京都の中心部にありながら、江戸以来の大手の構えをよく伝え、大規模町家の構成の典型を示している京町家。建物全体にわたって、京大工の技量が遺憾なく発揮されており、技術性・意匠性ともに優れたものをもっています。平成2（1990）年の2月に京都市の有形文化財に指定されました。





DEKA

Hayashi Masahiko



重要文化財 杉本家住宅・蔵 / 京都での展示 (2019)



DEKA

Hayashi Masahiko



GALLERY HEPTAGON/ 京都での展示 (2020)

「h」の文字の作品

作品の製作過程において重要な事は、会場に合わせて作品を制作するという事です。制作前に会場見取り図・図面を入手・実際に会場に足を運んでその雰囲気を感じ作品の構図やその会場でしか出来ないインスタレーションや設置方法を考えます。

「h」の作品は、展示会場の光が刻々と変わり行く事により日中の日が差し込む時間帯は切り絵として、そして日没後は影絵としてのインスタレーションを表現しました。

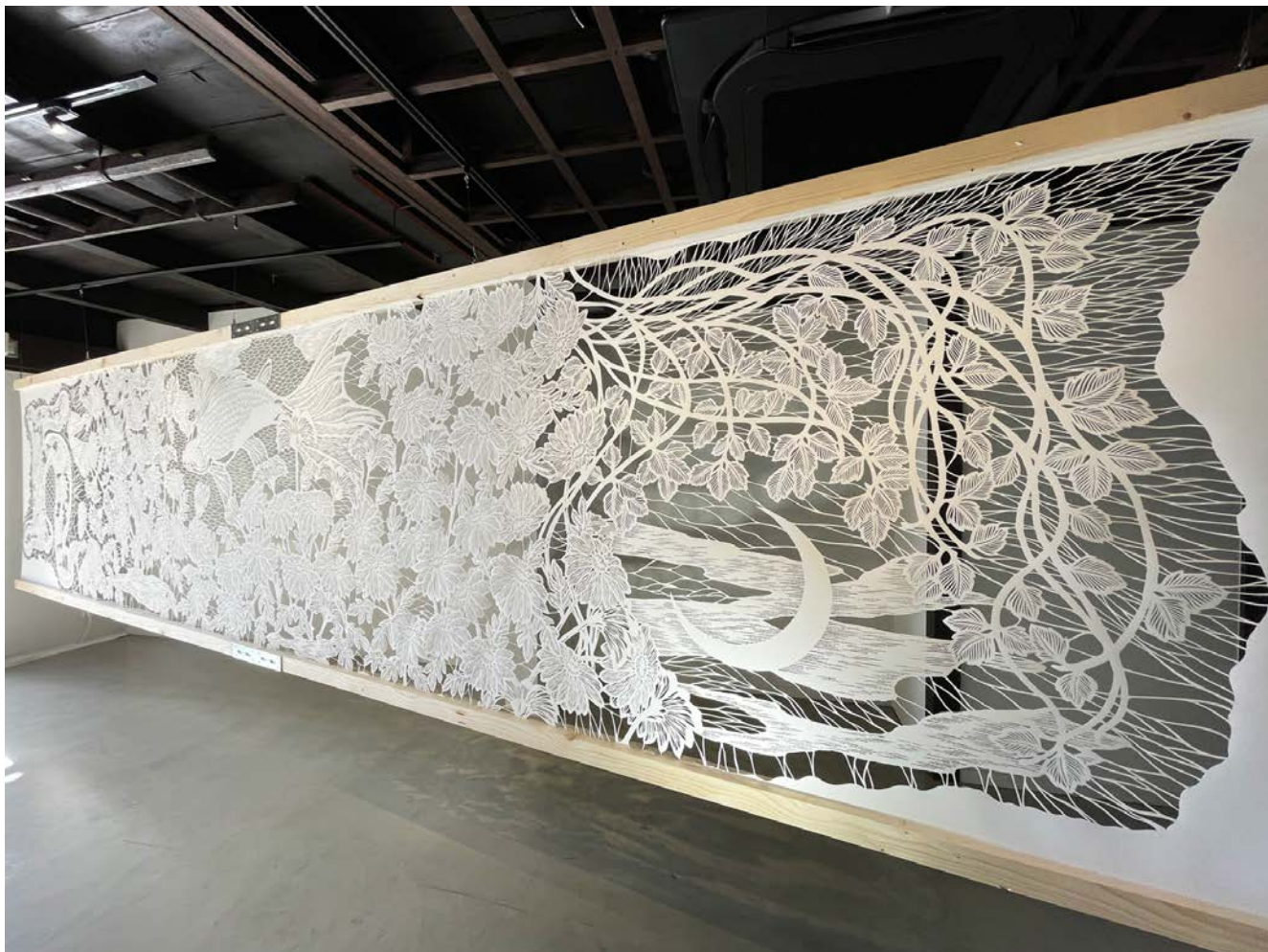
GALLERY HEPTAGON は京町屋を改装した中庭のある場所。会場の周りには鯉の泳ぐ池や昔ながらの華やかな時代の町屋が並びます。その細長い町家を泳ぐ様な・水辺の様な雰囲気・華やかかりし頃のイメージ・そしてGALLERY HEPTAGONの頭文字「h」を作品に入れて著名とする事にしました。





DEKA

Hayashi Masahiko



GALLERY HEPTAGON/ 京都での展示 (2020)



DEKA

Hayashi Masahiko



GALLERY HEPTAGON/ 京都での展示 (2020)





DEKA

Hayashi Masahiko



「ペン画の作品」

私の作品製作の基本ペン画。全ての作品は一度ペン画によって制作されます。それはモノクロで目の前に現れた時に色や風景を感じる事が出来るという事が一番大事だと考えているからです。

この様にペン画も切り絵・影絵の作品など、私の関わる制作は全て手作業で作り上げるという事に強いこだわりがあります。

昨今パソコンソフトやカッティングマシン等便利で早く形になるものは溢れていますがやはり完成時にはその魅力はコピー商品と同等の様に味気ないものとなります。

アーティストである以上「手」を実際に動かし、その時々で作品と向き合い、遊ぶ事によって「自身が感動するもの」が出来上がると考えています。





DEKA

Hayashi Masahiko





DEKA

Hayashi Masahiko



壁紙・会場配布ピック

- ・現在 <https://walpa.jp> (ブランド名 WALLTZ シリーズ) にて壁紙販売中。
- ・会場配布用ピック
- ・絵本用サンプルレーザー加工板